



缶けり

Make It Happen

永田円了

缶けりは空き缶 1 個あればできる、子供のころの楽しい遊びです。まずジャンケンでオニを決め、地面に円を描き、空き缶を円の真ん中に置く。そして一人が空き缶を思いっきり蹴ります。オニは蹴られた空き缶を元の位置にもどします。他のみんなは、オニが空き缶をもどしている間にどこかに隠れます。

オニは隠れている人を見つけたら、その人の名前を大きな声で呼び、空き缶を踏み、見つけられた人は、円の中で助けを待ちます。オニが残りの人を探しに行っている間に、誰かが空き缶を蹴れば、捕まった全員が解放され、またゲーム再開という遊びです。

この缶けり遊びは、数人が一緒に遊ぶという楽しさを与えてくれるのみならず、象徴的に 2 つのメッセージを伝えてくれる。1 つは、缶を蹴るというアクション。ブリキでできた堅い缶を思いっきり蹴る = 自らの殻を蹴り破る。その時に味わう爽快感は、自分の中に潜んでいた未知のチカラにリンクしたことを意味する。2 つ目は、オニに見つかるかもしれないリスクを冒してでも、走り、缶を蹴ることで、他のみんなを救うという大義。



人間は不安定が当たり前

これまで6万人を超える人を無償で占い続けているというゲッターズ飯田氏、「人間は不安定が当たり前」と言う。不安定だからバランスをとって生きてゆける。

安定すると固まってしまう。固まっている人のコトバは、ロボットのように冷たく響く(菅首相の国会でのスピーチ事例)。むしろ不安定で揺り動く感情を素直に表すひとの言動は人の心を打つ。(ドイツのメルケル首相のコロナ禍でのスピーチ事例)。

産廃会社 女社長の逆転人生

「私に社長をやらせてください!」、住民の反対運動で廃業に追い込まれそうになった産廃会社をみごと立て直した、若い女社長の知られざるストーリーの中に、今回のテーマ「缶けり」が現れている。この女社長は缶を 3 回蹴る:



住民の反対で廃業に追い込まれそうになった会社を引き受ける (1 回目の蹴り)。

前社長が 15 億円かけて造った煙突を取り壊す (2 回目の蹴り)。

里村を再現しようと決断する (3 回目の蹴り)。

結果を変えようとするなら、行動を変えなければならない。行動を変えたいなら、意識を変える必要がある。

意識が変わる → 行動が変わる → 結果が変わる

一般には行動から始まって、結果に至る。目に見えない意識の部分は、置き去りにされるのが普通の方。この女社長さんは意識を変えた。里村を再現するという大義を心のど真ん中に据えたのである。

<事例 DVD>

石川えりこ作 絵本「かんけり」

コロナ禍の中「ピンチの企業に秘策社員」クローズアップ現代

「人間は不安定が当たり前」ゲッターズ飯田

「生命は造ることより、壊すことを一生懸命にしている」

福岡伸一

メルケル首相のコロナ禍での、心を打つスピーチ

逆転人生「ヤマユリ咲き誇るゴミ処理場」

産廃会社 女社長の思い切った決断ストーリー

歌・マライア・キャリー Make It Happen

円了のホームページ: www.enryo.jp

